

令和7年度入学試験問題

小論文

(法学部・前期日程)

注意事項

1. この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 問題冊子は、全部で1ページです。問題冊子の中に下書き用紙が1枚入っています。また、別に解答用紙が1枚あります。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は申し出てください。
3. 受験番号は、解答用紙の指定された2箇所に必ず記入してください。
4. 横書きで解答してください。
5. 解答時間は、120分です。
6. 問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ってください。

ギャンブルを法令により規制するかどうかを考えた場合，次の3つの立場があり得る。ギャンブルを全面的に禁止して処罰の対象とする立場(「全面禁止」)もあれば，逆に，ギャンブルを違法行為とはせず全面的に許容する立場(「全面許容」)もあり得よう。これらとは異なり，日本では原則として刑法でギャンブルを犯罪として処罰する一方，たとえば競馬法により競馬を，馬の改良増殖その他畜産の振興への寄与，地方財政の改善のために許容するという立場(「一部許容」)がとられている。

上記の「全面禁止」，「全面許容」，「一部許容」の3つの立場についてそれぞれ検討したうえで，あなたが妥当と考える立場について，その理由とともに，1,000字以内で論じなさい。